



# 2023年9月期上半期決算説明資料



2023年6月7日

**ホソカワミクロン** 株式会社



# 1. 2023年9月期 上半期決算概要

## 2. 今後の見通し

## 3. トピックス

## 4. 参考資料



# 1. 2023年9月期 上半期決算概要

## 2. 今後の見通し

## 3. トピックス

## 4. 参考資料

# 決算概要

**連結**

受注高  
**440**億円  
前年同期比  
**11.1%増**↑

売上高  
**371**億円  
前年同期比  
**14.1%増**↑

営業利益  
**32**億円  
前年同期比  
**5.8%増**↑

**粉体関連事業**

受注高  
**361**億円  
前年同期比  
**26.0%増**↑

売上高  
**297**億円  
前年同期比  
**25.2%増**↑

**プラスチック薄膜関連事業**

受注高  
**79**億円  
前年同期比  
**27.8%減**↓

売上高  
**74**億円  
前年同期比  
**15.9%減**↓

**地域別業績イメージ**

欧州

米州

日本

アジア・他

粉体関連  
事業プラスチック  
薄膜関連事業



# 上半期 決算ハイライト

二次電池向けなど電子材料分野の引合が活況

**受注高**は過去最高となる440.5億円（対前年同期比11.1%増）

豊富な受注残高から、**売上高**は過去最高の371.8億円（対前年同期比14.1%増）  
サプライチェーンや物流の混乱から納期の長期化傾向は続く

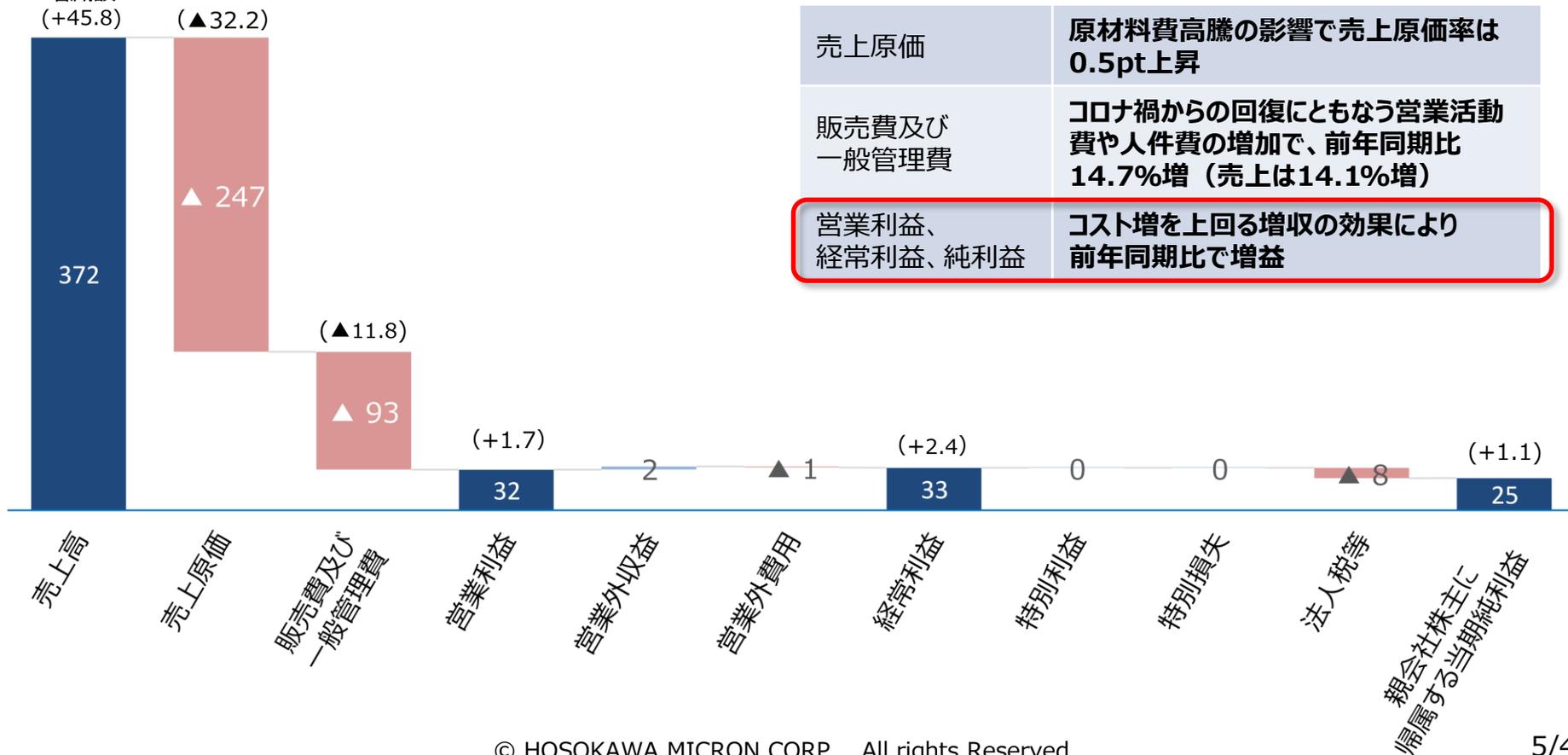
受注先行の状況から、第2四半期末の**受注残高**は過去最高の568.9億円に

増収効果で**営業利益**は32.0億円（対前年同期比5.8%増）と増益  
プラ薄事業で原材料費高騰前の案件売上が続き、売上総利益率は0.5pt低下

# 上半期 損益

(億円)

前年同期比較での  
増減額



為替レート	上半期	2023年度	2022年度
	US\$ (米ドル)	136.96円	114.95円
	€ (ユーロ)	143.20円	130.23円

売上原価	原材料費高騰の影響で売上原価率は0.5pt上昇
販売費及び一般管理費	コロナ禍からの回復にともなう営業活動費や人件費の増加で、前年同期比14.7%増（売上は14.1%増）
営業利益、経常利益、純利益	コスト増を上回る増収の効果により前年同期比で増益

# 分野別受注高

(億円)

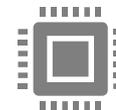
※メンテナンス、受託加工等を除く



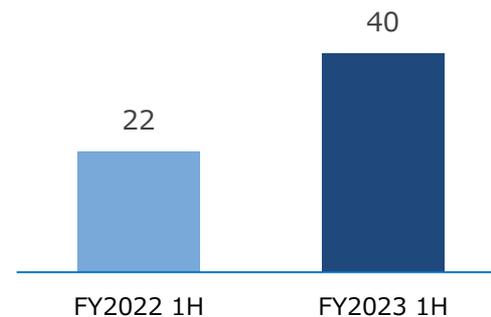
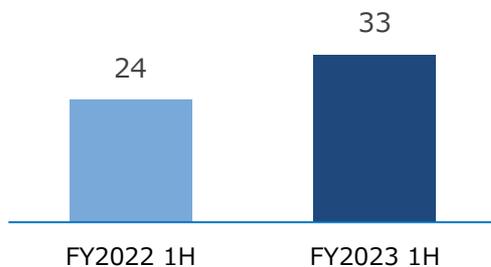
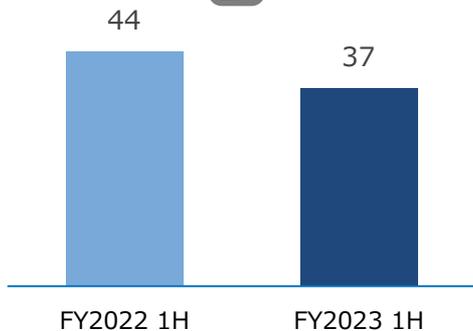
医薬



食品



電子材料



プラ薄・樹脂



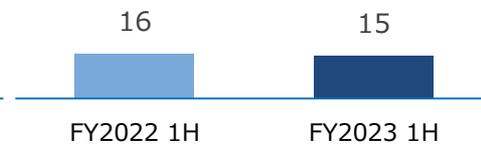
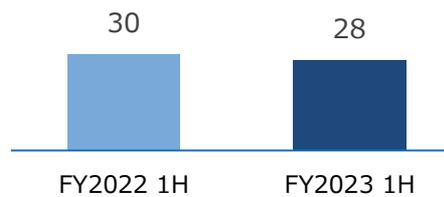
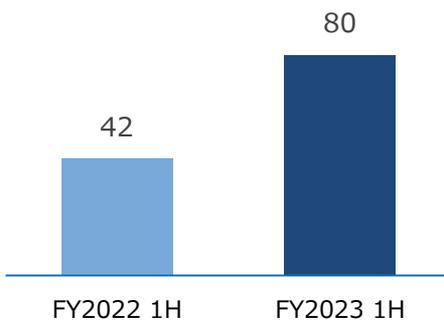
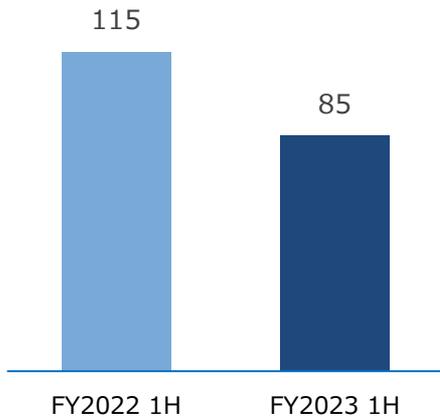
化学



金属・鋳産物

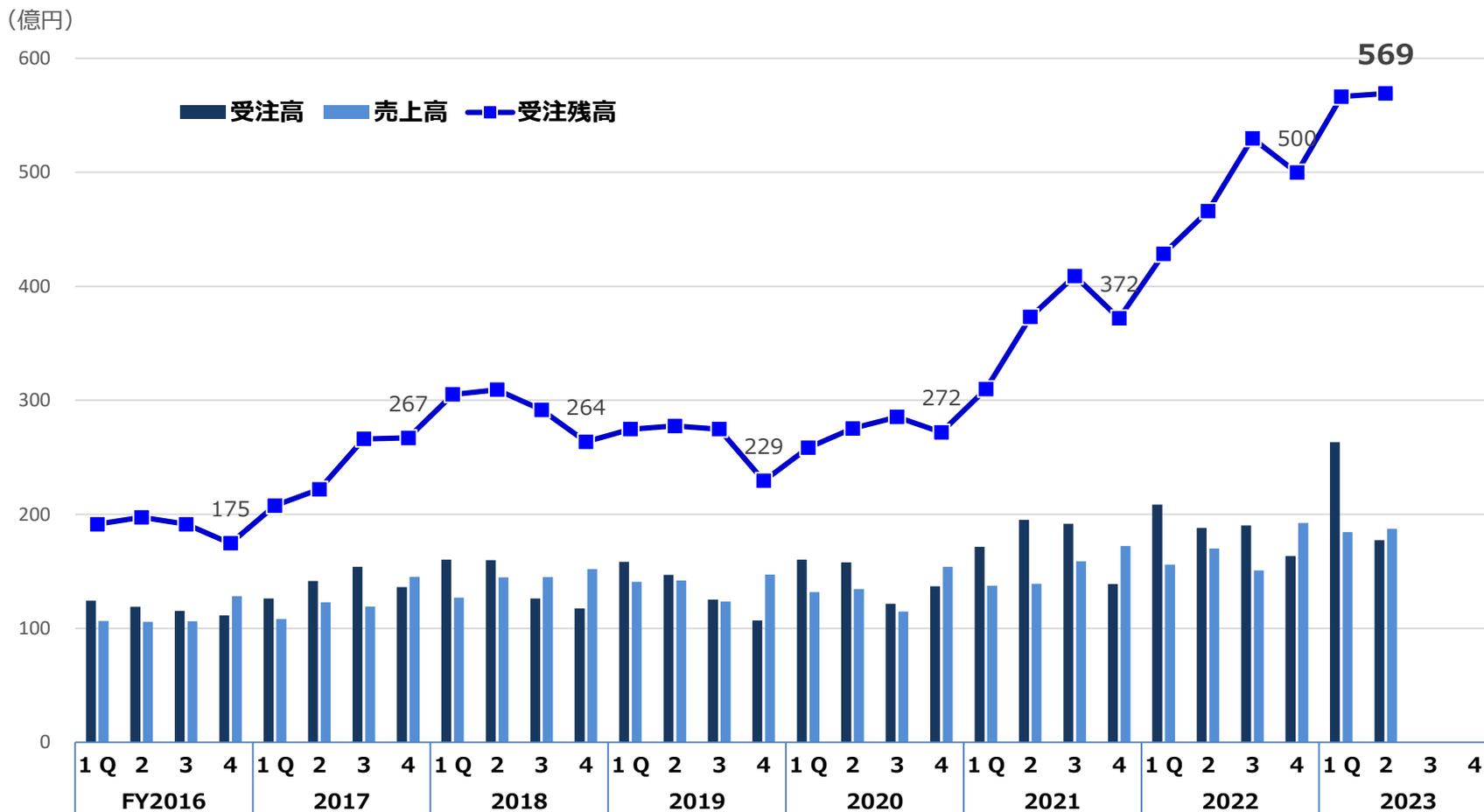


リサイクル



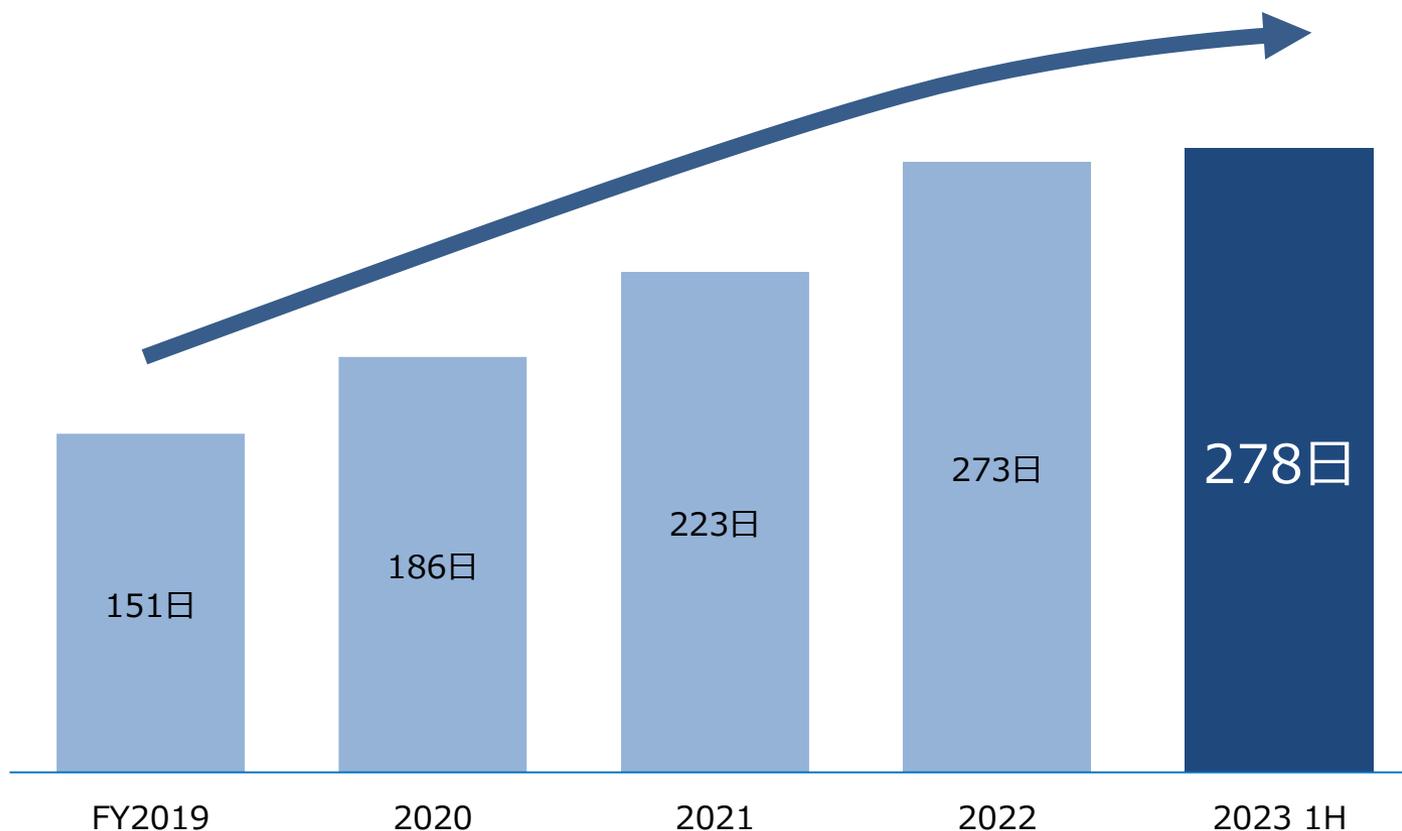
# 受注高・売上高・受注残高の推移

✓ 好調な受注により、2023年度下半期への繰越受注残高は過去最高（約569億円）  
長納期化傾向の解消が課題



# 受注残 滞留日数 推移

✓ 調達部品・材料の長納期化による受注残 滞留日数の増加も良化傾向



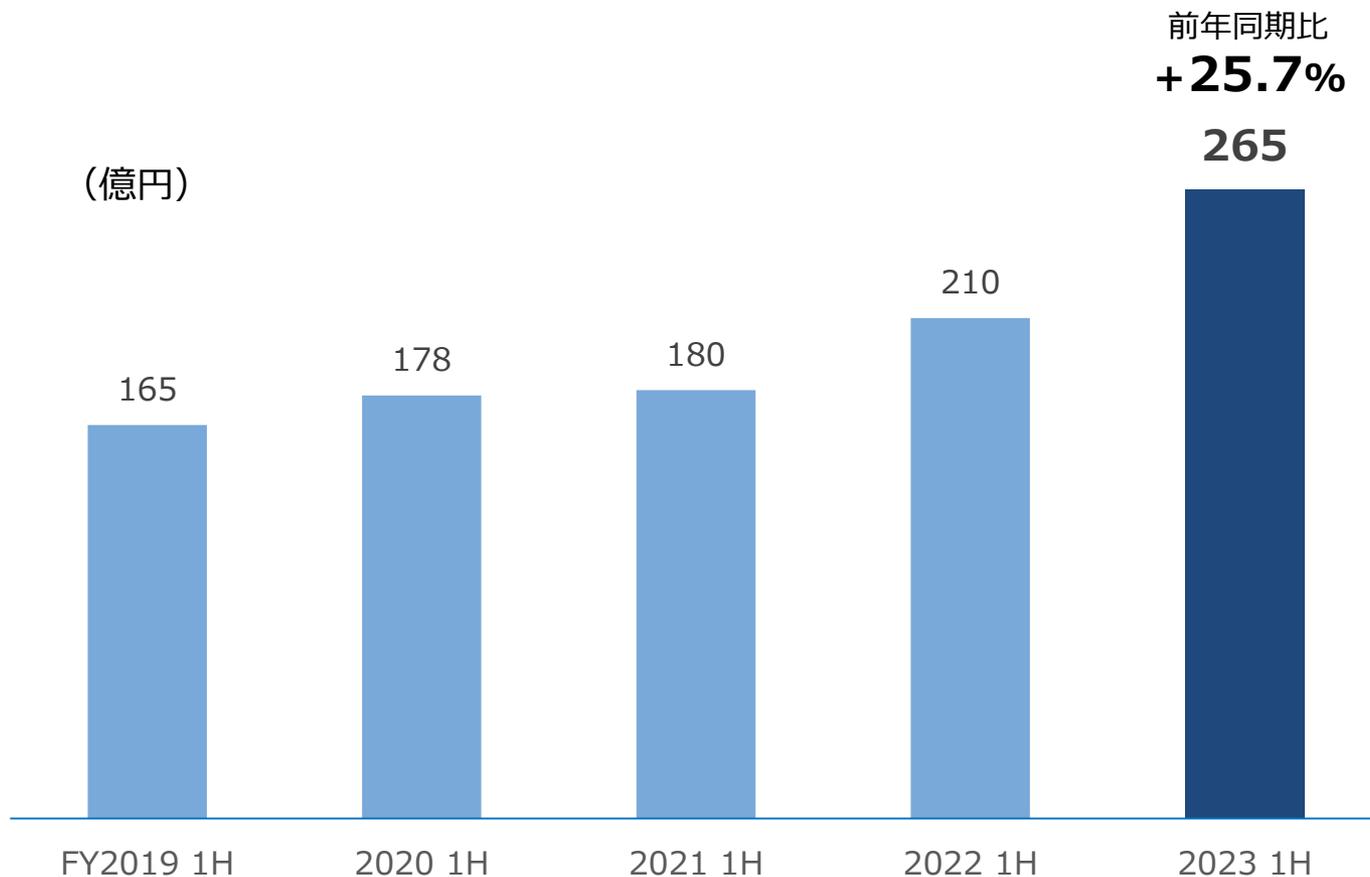
※1 受注残 滞留日数 =  $\frac{\text{受注残高}}{\text{1日あたりの売上高 (売上高} \div 365 \text{日)}}$

※2 FY2023 上半期の1日あたりの売上高に関しては、1日あたりの売上高を 売上高 $\div$ 182日 で算出



## 事業別受注高（粉体関連事業）

- ✓ 主力の化学分野や、増産が続く二次電池用途を中心とした電子材料分野が好調、食品関連も特定分野への投資が回復して、前年同期比25.7%増

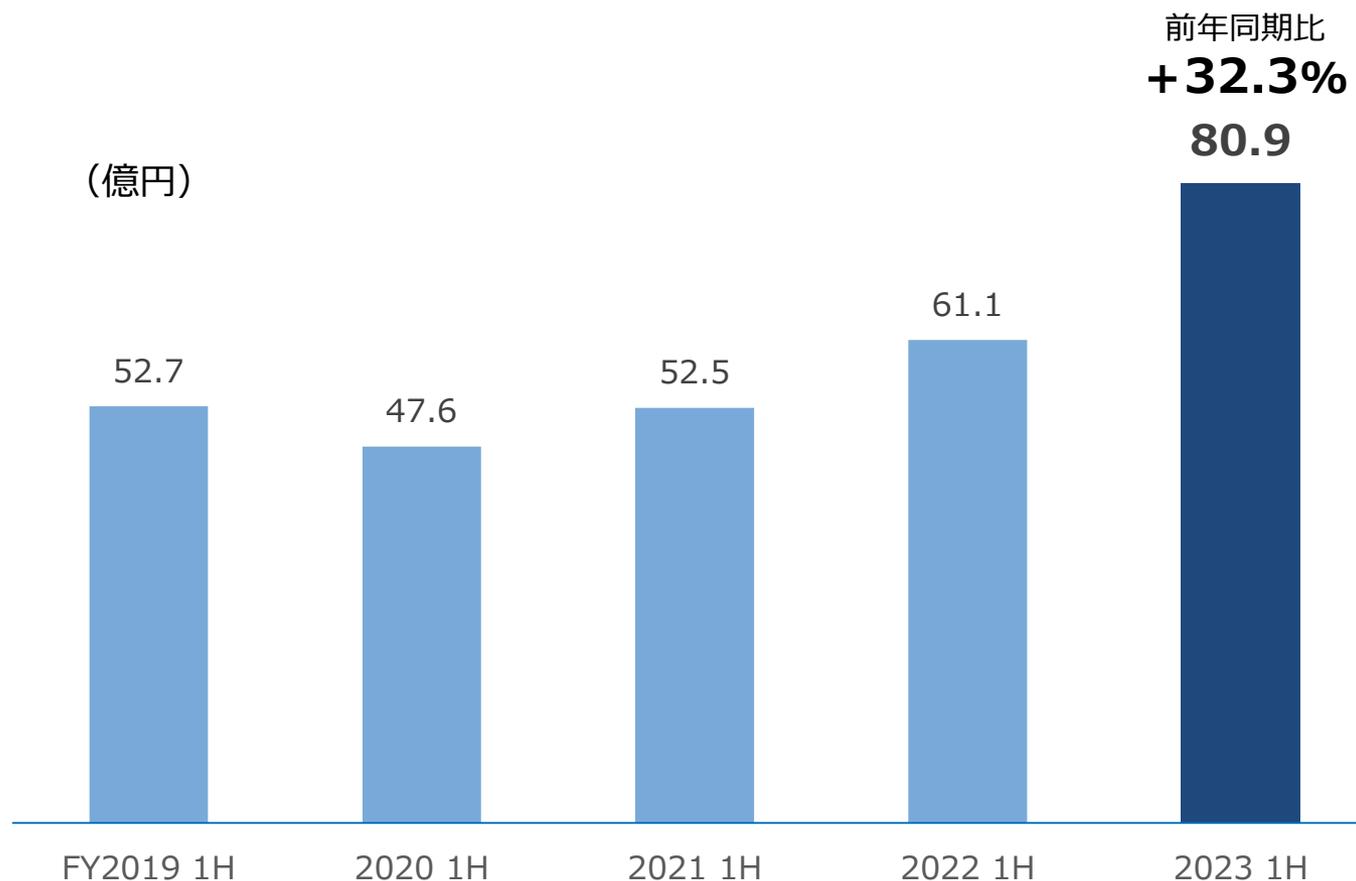


※メンテナンスサービス、受託加工を除く



# 事業別受注高（メンテナンスサービス事業）

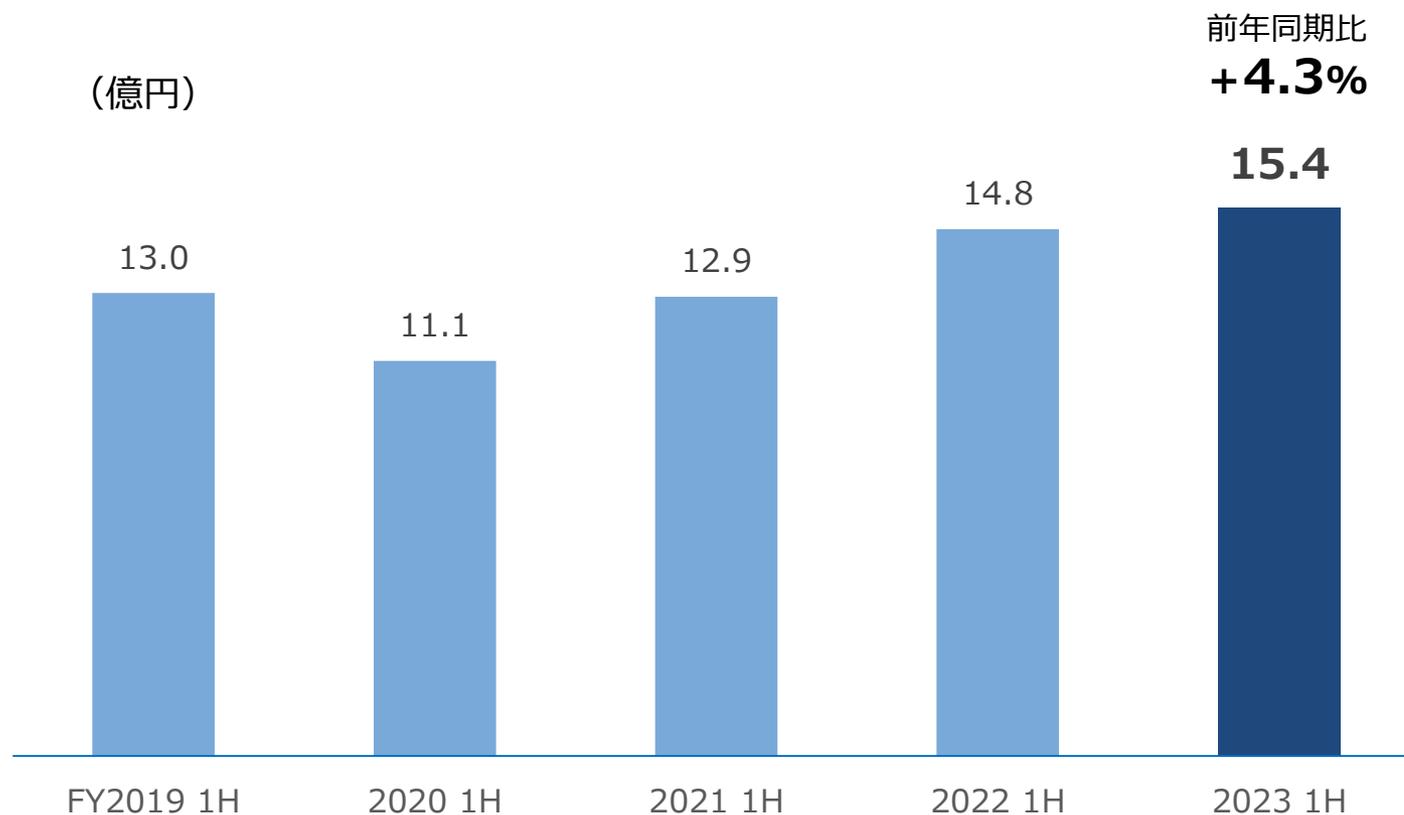
- ✓ 二次電池材料関連などの活況を受け、国内外で好調を維持。  
特に米国・中国・西ヨーロッパ・東南アジア・韓国の市場では大きく伸長し、前年同期比32.3%増





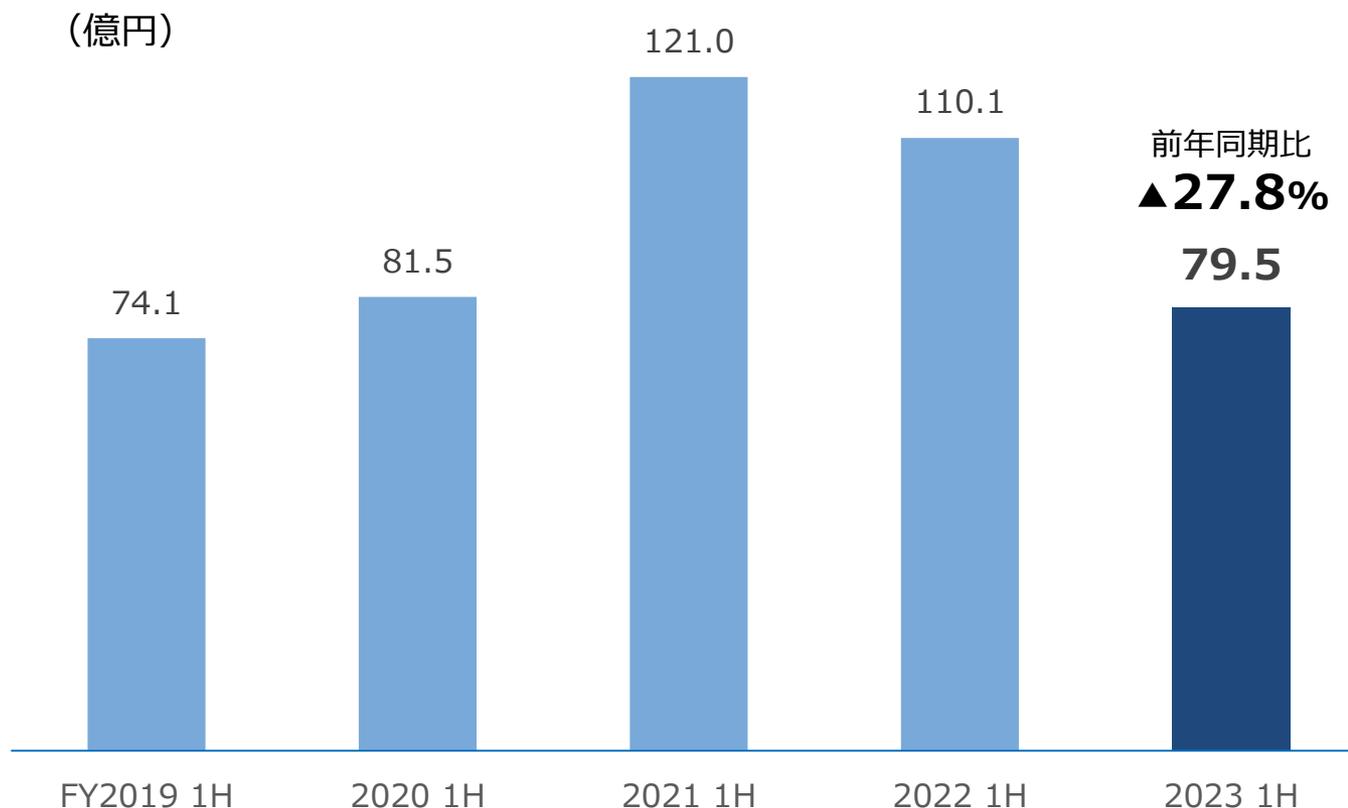
# 事業別受注高（受託加工事業）

✓ 業績は国内外共に堅調に推移しているが、エネルギーコストの削減や価格転嫁への交渉が課題



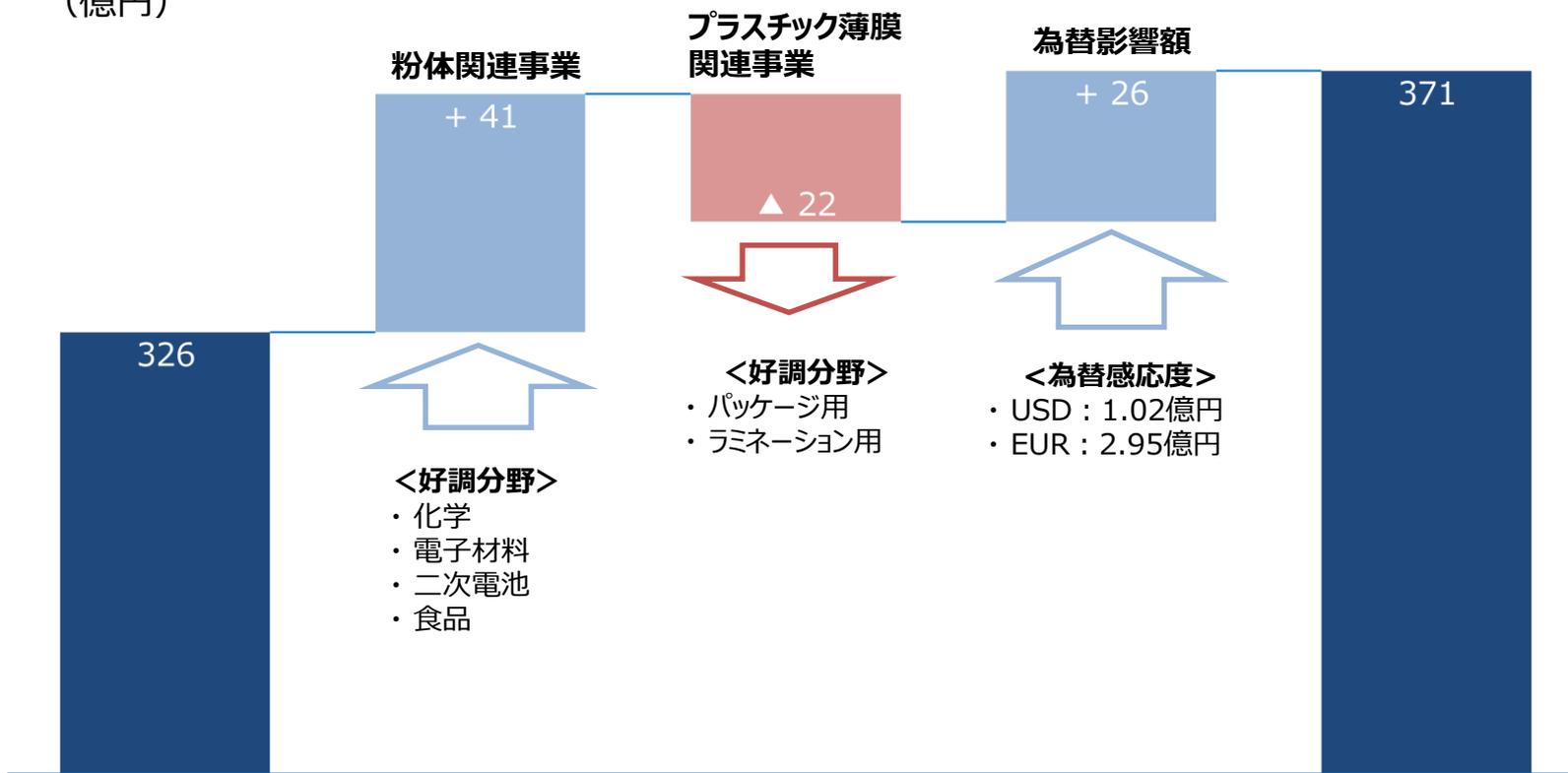
# 事業別受注高（プラスチック薄膜関連事業）

- ✓ 主力の欧州市場での引合は好調ながら、米国市場では調整局面を迎えている。受注残高は高水準にあるが、長納期化の改善と価格転嫁の遅れが課題



# 売上高増減要因

(億円)



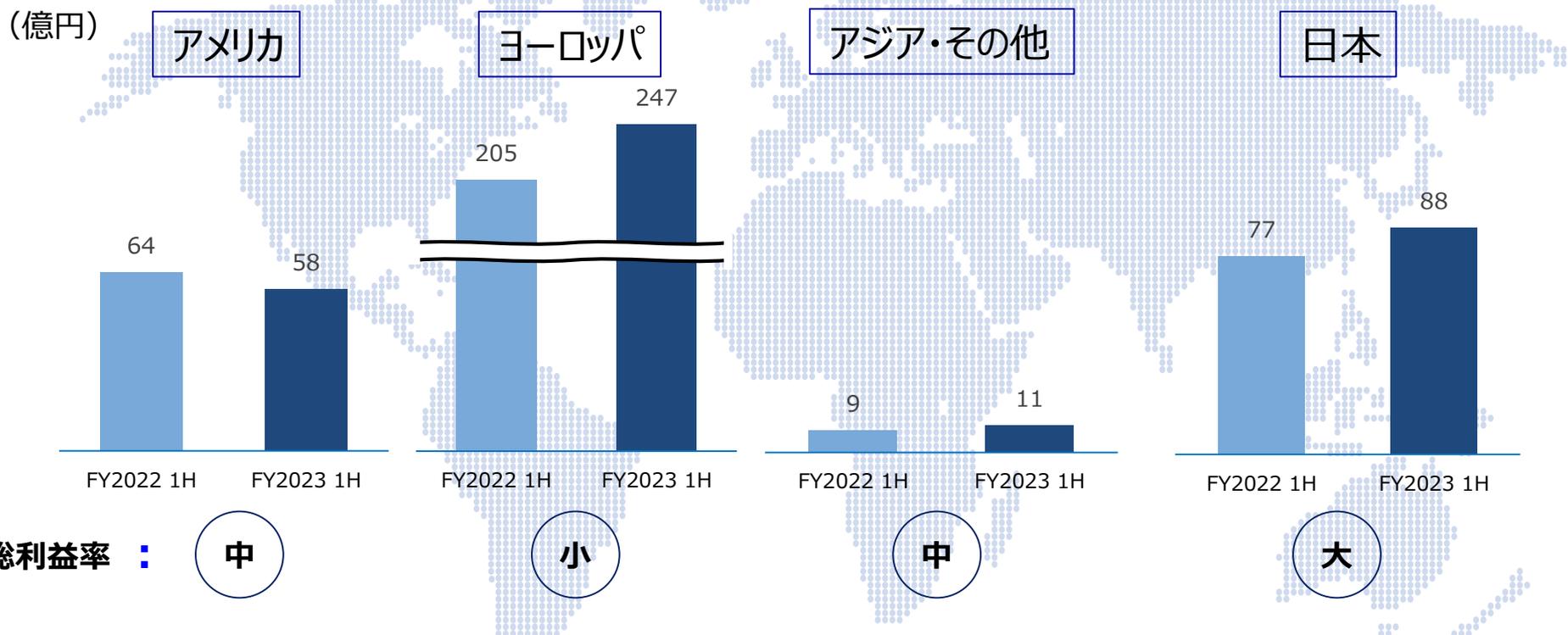
FY2022 1H  
売上高

FY2023 1H  
売上高

	上半期	2023年度	2022年度
為替レート	US\$ (米ドル)	136.96円	114.95円
	€ (ユーロ)	143.20円	130.23円

# 売上高の状況（グループ会社所在地別）

- ✓ FY2023上半期の、海外現地法人の売上高比率は約76%
- ✓ プラ薄に関しては、米国で前年同期比で減収
- ✓ 粉体に関しては、全地域で前年同期比で増収、全社としても増収で着地



※所在地別セグメント間の取引調整前の売上高

# 営業利益増減要因

(億円)

## <増収効果>

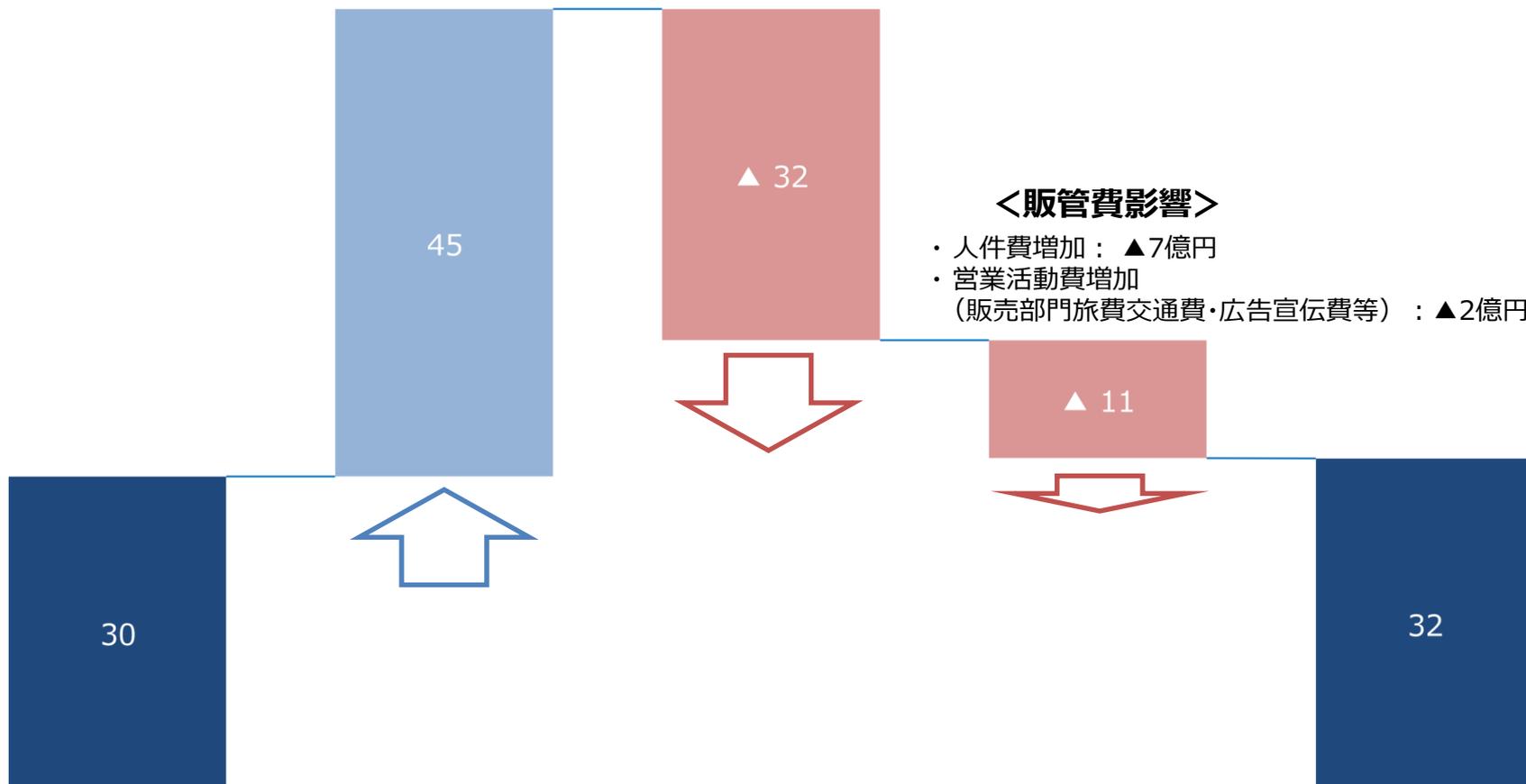
- ・粉体関連： +59億円
- ・プラ薄膜関連： ▲14億円

## <売上原価影響>

- ・原材料・外注加工・諸手数料等増加： ▲12億円
- ・人件費増加： ▲8億円

## <販管費影響>

- ・人件費増加： ▲7億円
- ・営業活動費増加  
(販売部門旅費交通費・広告宣伝費等)： ▲2億円



FY2022 1H  
営業利益

FY2023 1H  
営業利益

# 貸借対照表

✓ 自己資本比率：59.7%（前年同期比▲2.7pt）

（ ）内は、前期末からの増減額

（億円）

## 流動資産

581  
(▲3)

現金預金  
243  
(▲13)

売掛金等  
193  
(+11)

## 固定資産

291  
(+15)

有形固定資産  
255  
(+14)

主に、  
日・米受託加工工場  
に関する投資

## 負債

351  
(+28)

買掛金等  
100  
(+10)

有利子負債 22

## 純資産

521  
(▲15)

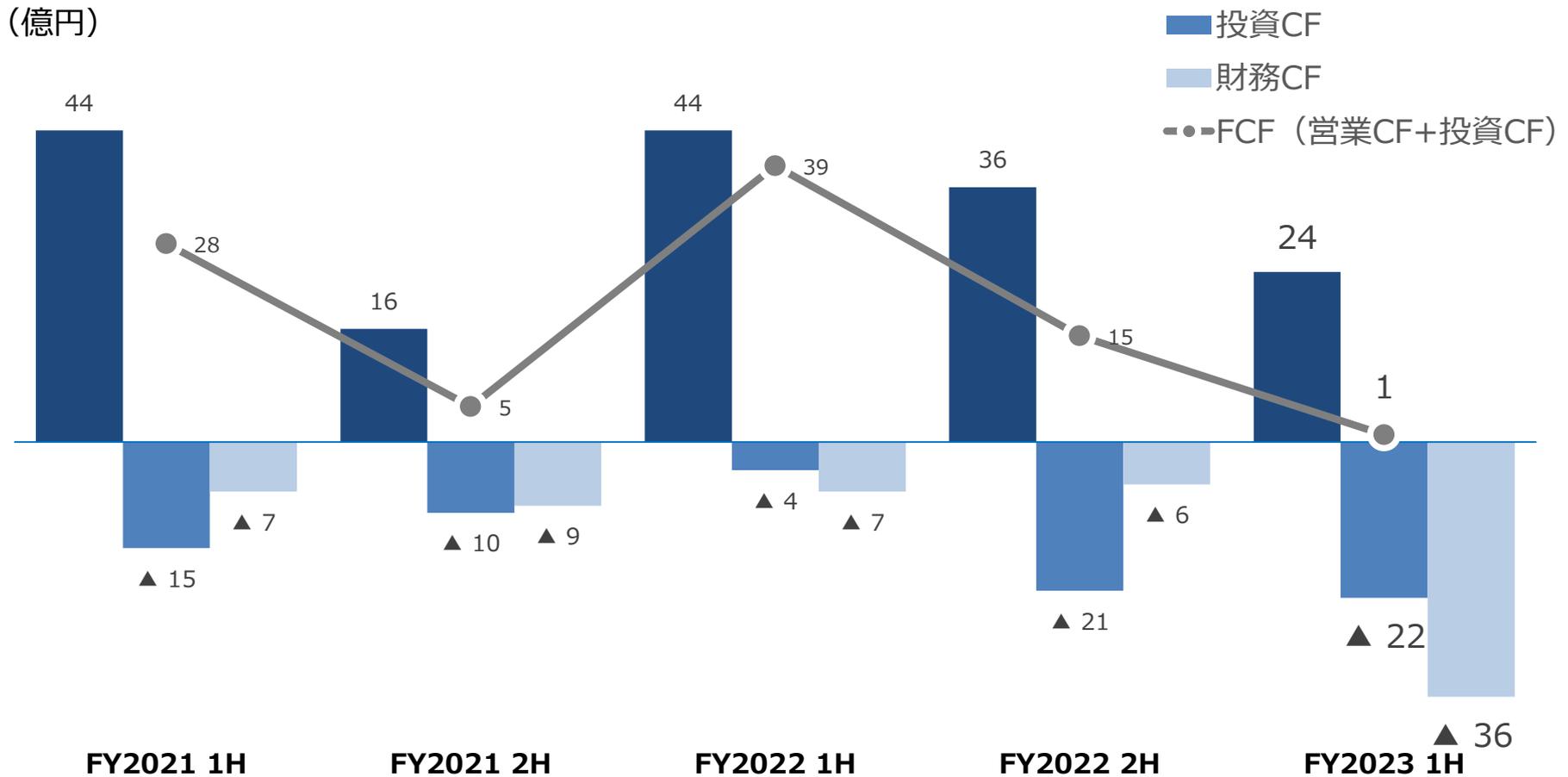
利益剰余金  
371  
(+18)

自己株式  
▲59  
(▲35)

自社株買い

# キャッシュフロー

- ✓ 顧客の支払タイミングによって、一時的に当上半期については営業CFが減少
- ✓ 主に有形固定資産の取得及び自己株式の取得により、投資活動及び財務活動による支出はそれぞれ増加



# 株価の状況と配当

ホソカワミクロン 株価と取引高の推移

(2023年5月19日現在)

株価  
(円)



出来高  
(千株)

2017年3月29日に5株併合  
2021年10月1日に1株につき2株の割合  
で株式分割

株価・取引高は現在の株式数で換算した値

	年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
1株当たり 配当金 (円) 現在の株式数 で換算した値	中間配当	18.75	18.75	25.0	27.5	27.5	27.5	35.0	37.5
	期末配当	25.0	25.0	30.0	27.5	27.5	40.0	40.0	37.5 (予想)
	年間配当	43.75	43.75	55.0	55.0	55.0	67.5	75.0	75.0 (予想)



1. 2023年9月期 上半期決算概要

2. 今後の見通し

3. トピックス

4. 参考資料

## 通期予想と進捗率

- ✓ 下期への繰越注残は過去最高水準で、納期は高止まり
- ✓ 価格への転嫁の進んだ案件の売上計上により、緩やかに収益性が改善する見込み

(百万円)	2023年度 上半期	2023年度 下半期 (通期予想との差額)	2023年度 通期予想	進捗率(%)
売上高	37,182	32,818	70,000	53.1
営業利益	3,204	3,296	6,500	49.3
経常利益	3,367	3,133	6,500	51.8
当期純利益	2,529	1,971	4,500	56.2

為替レート(計画)	US\$(米ドル)	€(ユーロ)
	130.00円	135.00円

▶ 計画レートよりも円安であるため、円安分上振れて着地する可能性も

# 想定リスクと下半期の見通し

FY2023  
計画策定時

FY2023  
上半期 結果

FY2023  
下半期 (予想)

アフターコロナによる、  
活動の活性化



販管費増加を予想

**予想通り**  
前年同期比  
**14.7%増**

販管費増加を予想

長納期化



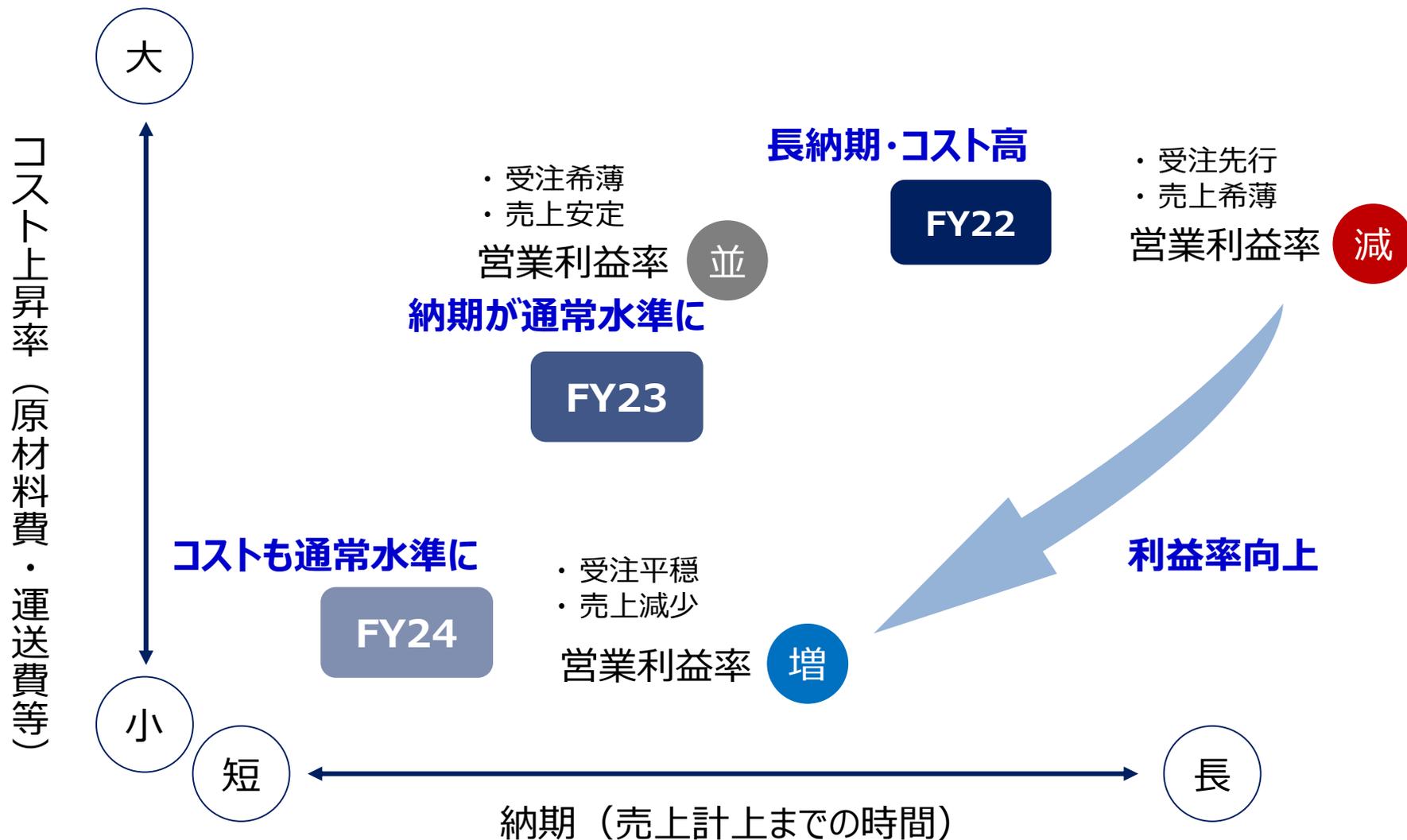
納期短縮を予想

**予想外**  
上半期中は改善せず

現在見通し立たず

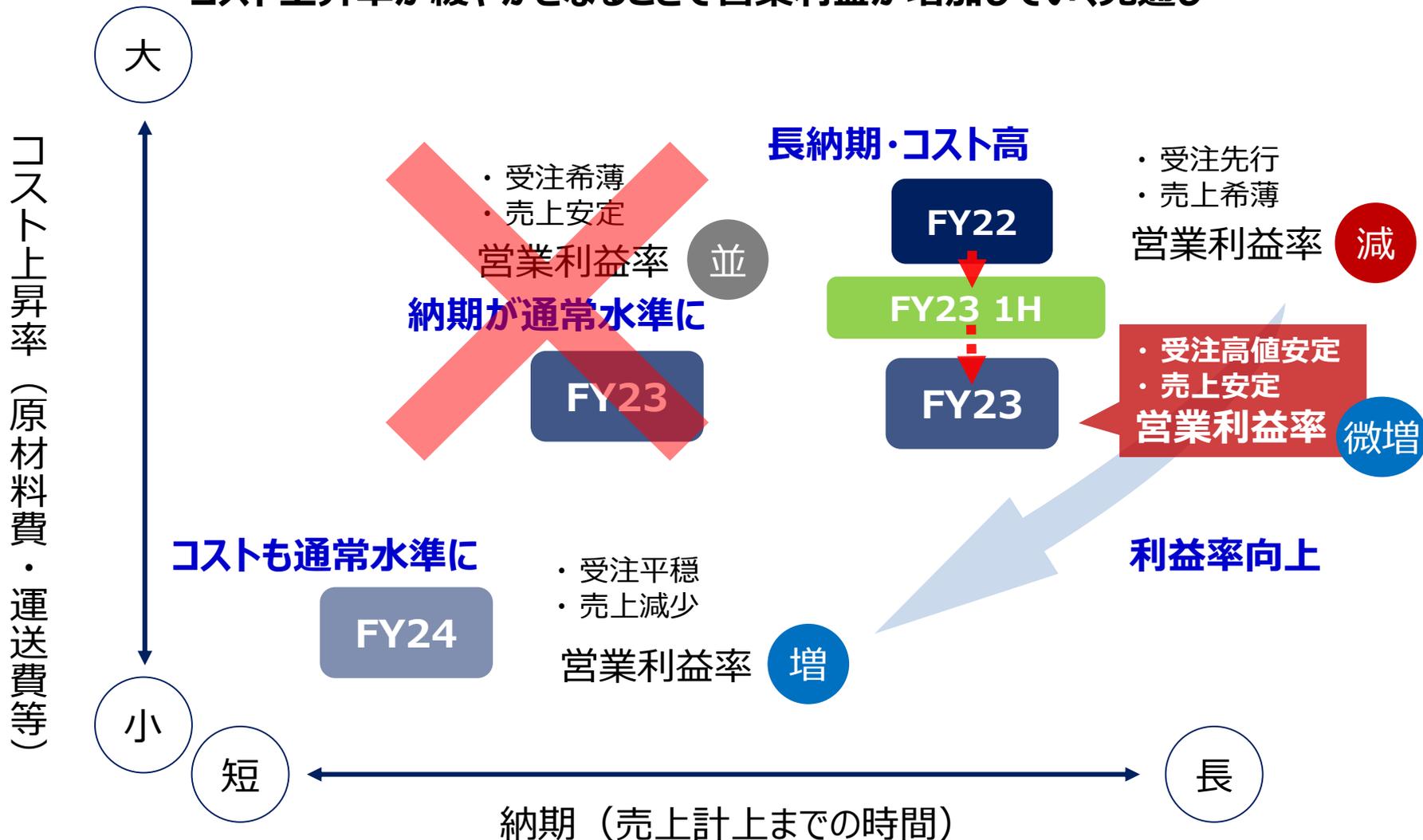
# 納期とコストの見通し（計画策定時）

✓ 納期やコストが通常期に戻り、営業利益が増加していく見通し



# 納期とコストの見通し（上半期を終えて補正）

✓ 長納期が定常化しているものの、価格転嫁が進み、コスト上昇率が緩やかとなることで営業利益が増加していく見通し





# 業績推移 (連結)

## 第14次中期3カ年

粉体技術連峰の発展と強化

## 第15次中期3カ年

グループシナジー効果を発揮し、売上・収益の拡大により企業価値を高める

## 第16次中期3カ年

グループ一体となったグローバルマーケティング推進によるブランド力と収益力の強化

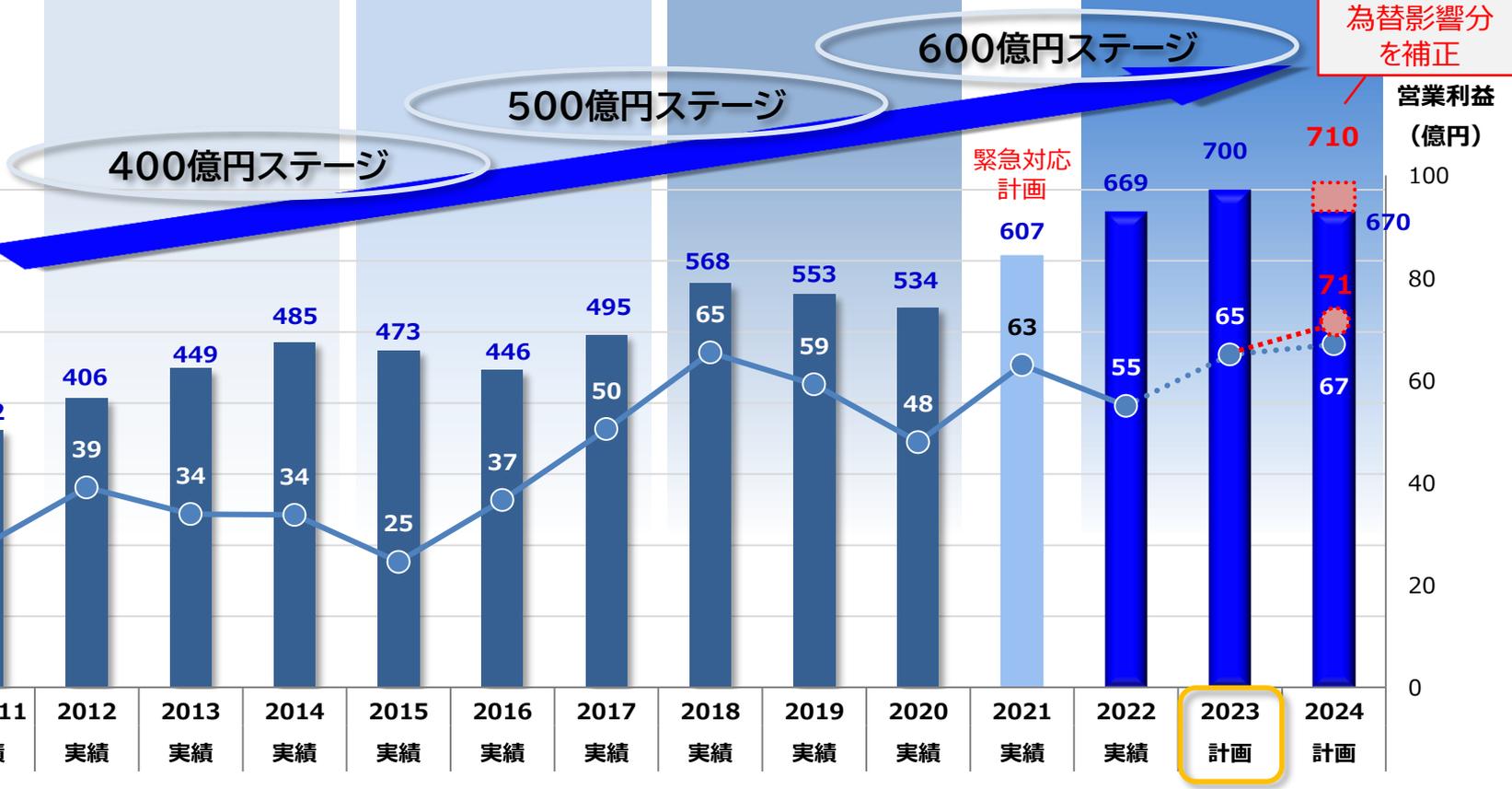
## 第17次中期3カ年

### Challenge to be Global Standard

ホソカワミクロングループの最先端技術を業界世界標準へ

売上高 (億円)

営業利益 (億円)



600億円ステージ

500億円ステージ

400億円ステージ

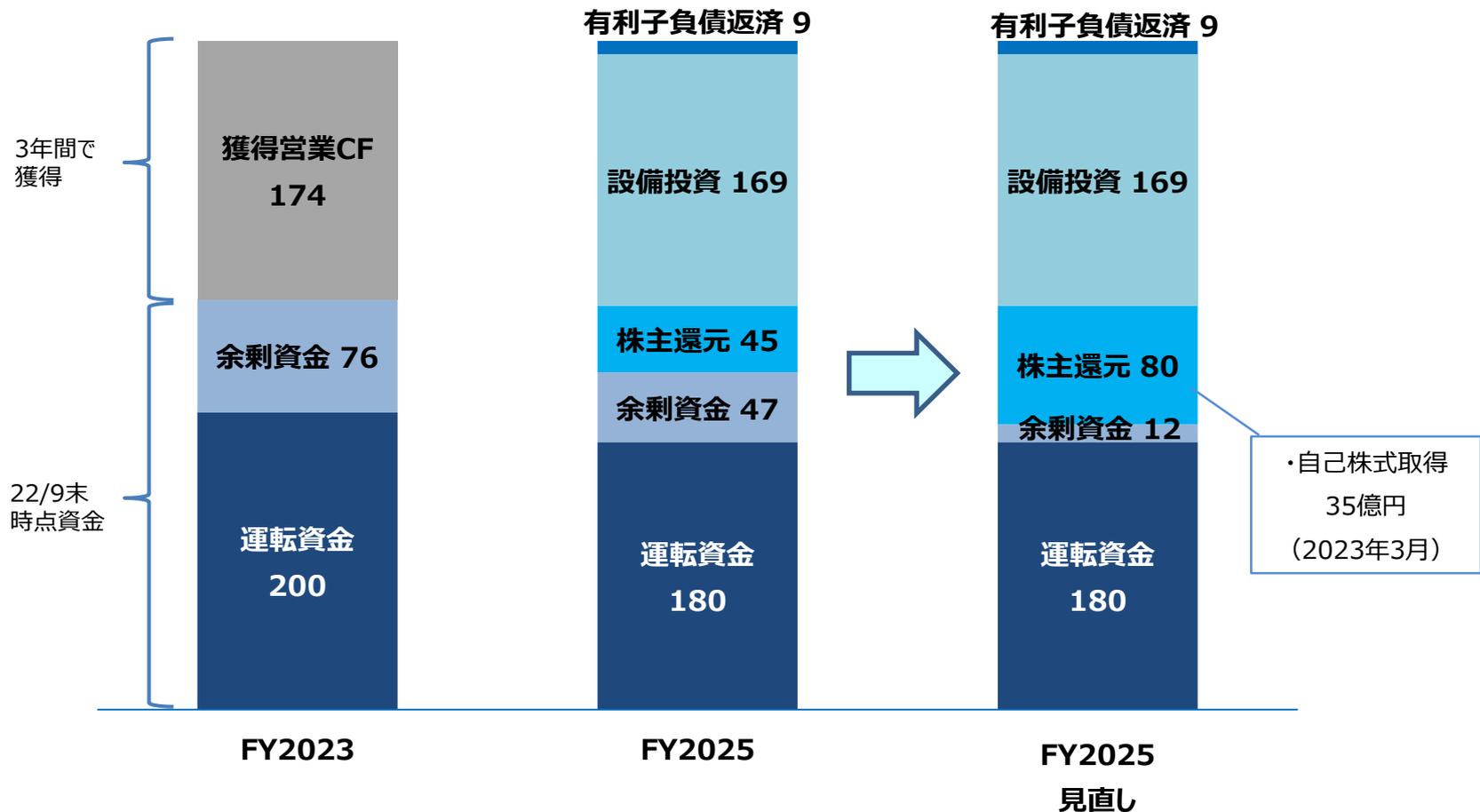
緊急対応計画

為替影響分を補正

Now

# キャッシュ・アロケーション

- ✓ 2023年3月 自己株式取得
- ✓ 長納期化が継続の状況から運転資金は確保





1. 2023年9月期 上半期決算概要

2. 今後の見通し

3. トピックス

4. 参考資料

# 政策保有株式見直しに係る自己株式取得について

## Point

1

(株)日清製粉グループ本社  
「日清製粉グループ中期経営計画2026」

⇒ 政策保有株式を着実に縮減していく方針

## Point

2

- ・両社それぞれにて、当社株式を保有
- ・日清エンジニアリング（株）とは、業務提携関係あり

※出資関係見直し後も、**業務提携関係は維持**

(株) 日清製粉グループ本社

日清エンジニアリング（株）

出資関係を見直し

ホソカワミクロン(株)

## Point

3

両社保有の当社株式  
1,334,900株  
を自己株式として取得



自己株式消却 1,500,000株  
(発行株式の約8.7%)  
⇒消却後発行済株式総数：15,730,538株

# 測定分析 ドイツ合弁会社設立

- ✓ H&B社と当社子会社ホソカワアルピネ社のパートナーシップの強化および粒子分析における測定・ラボ機事業の業容拡大を目的
- ✓ 両社の粒子分析における測定・ラボ機事業を引継ぎ、製品ラインアップの拡充と顧客への更なる迅速な対応を可能に

## NEXOPART

simplicity for your lab

名 称	NEXOPART GmbH & Co.KG.
所 在 地	ドイツ ノルトライン＝ヴェストファーレン州 エルデ市
事 業 内 容	粒子分析および測定における装置の開発、製造、販売、保守
設 立 年 月 日	2023年4月1日
出 資 比 率	ホソカワアルピネ社:50%、H&B社 : 50%

Haver & Boecker OHG (H&B社) について :

設立130年以上の長い歴史を持ち、金網製品と計量・包装・ミネラル処理装置の分野で50以上の子会社と150以上の代理店を持つグローバル企業であり、同分野におけるリーディングカンパニーである。同社とホソカワアルピネ社は100年にわたる取引実績があり、特にホソカワアルピネ社におけるラボ・測定機器の生産に同社の技術が貢献している。

# 受託加工 新工場の設立

- ✓ 新工場設立により、ホソカワ受託加工の生産能力は現在の1.5倍に
- ✓ 将来的には24時間稼働の実現に向け、最新機種導入による自動化を図る

## 工場概要：

工場名称	ホソカワ受託加工株式会社 つくば和台工場
所在地	茨城県つくば市和台27-2
投資金額	約 5.5億円（土地、建物、加工設備を含む）
敷地面積	約 22,240 m <sup>2</sup>
延床面積	約 2,856 m <sup>2</sup>
保有者	ホソカワミクロン株式会社
稼働予定日	2023年10月

工場外観写真





1. 2023年9月期 上半期決算概要

2. 今後の見通し

3. トピックス

4. 参考資料

# 会社概要

代表者	代表取締役社長 細川 晃平		
創業	1916年4月	資本金	144億9,600万円
設立	1949年8月	決算月	9月
株式	東証プライム 上場 (2022年4月4日~)		
本社所在地	大阪府枚方市招提田近1-9		
従業員数	連結 1,916名 単体 401名		

※2023年3月末現在



# ホソカワミクロンについて

## 企業理念

粉体技術の開発を通して社会に貢献する



## Corporate Vision

プロセス機器、システムエンジニアリングおよび新素材の開発、製造、実用化などにより次世代先端産業を創出し、“粉体技術連峰”の新たな展開を実現する

“粉体技術連峰”とは

ホソカワミクロンの優れた製品や技術を高い峰々に、

それを取り巻く周辺技術やエンジニアリングを裾野に捉え、連峰に見立てた造語



# ホソカワミクロンについて

## 事業内容

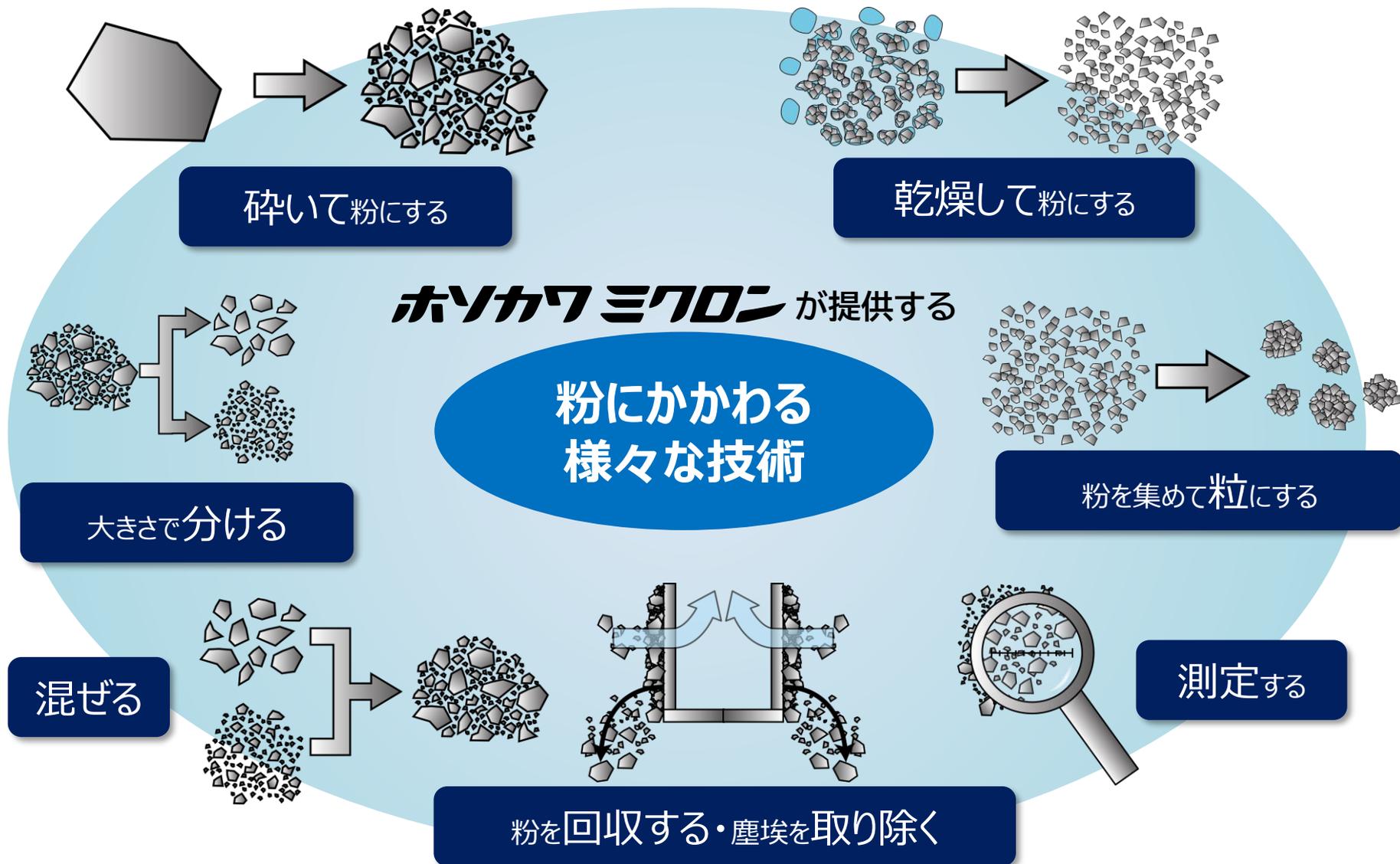
あらゆる産業分野を対象に、  
粉体を取り扱う機械・装置及びそのシステムエンジニアリングを提供

## 事業領域

粉体関連事業とプラスチック薄膜関連事業の2事業を展開



# 粉体技術



# 粉体関連装置 (二次電池・電子部品等の製造に貢献する製品一例)



二次電池材料（リチウムイオン、全固体電池を含む）の微粉碎



リチウムイオン電池原料の乾燥



電子部品の原料等の微粉碎



二次電池材料の原料を混合



二次電池材料の粒子一粒ずつを被覆、精密混合して機能性を高める粒子設計



ネオジム磁石原料の超微粉碎



各種原料であるミネラルの超微粉碎

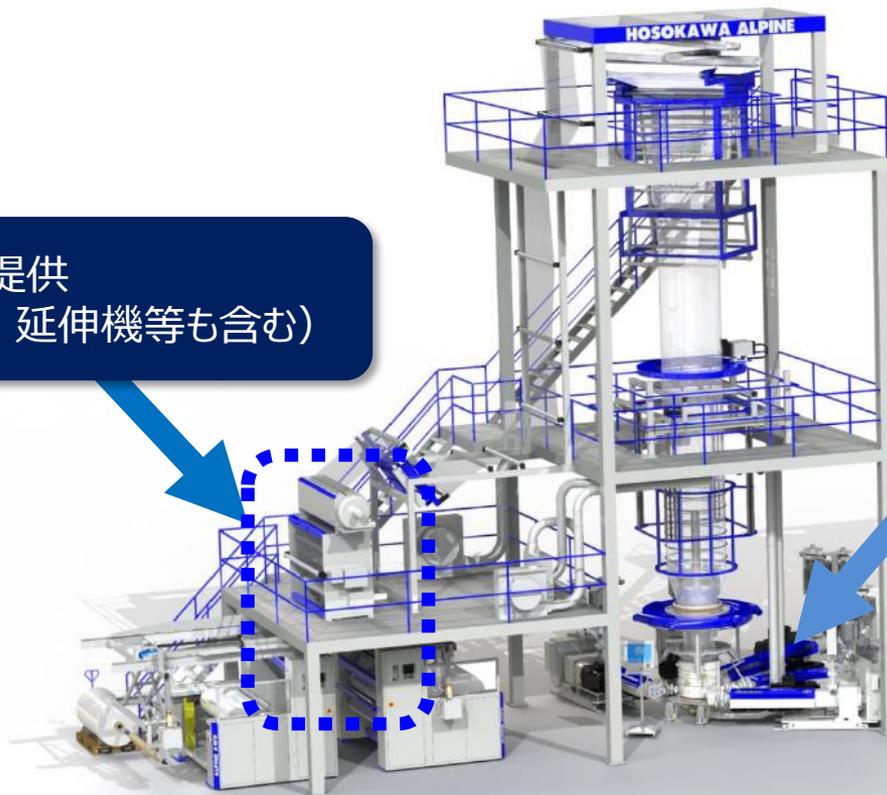
# プラスチック薄膜関連装置 (例)

インフレーション法によるフィルム製造装置

システムとして提供  
(巻き取り機、延伸機等も含む)

溶かした樹脂を空気で  
膨らませて袋状に成形

半透明の部分がフィルム



# 全世界に事業展開

## 業界最大級の製造・アフターサービス・研究開発体制

- ✓ 日米欧の自社工場により、製造・大型機を修理
- ✓ メンテナンス・リフォーム（設備改善）をグローバルに対応
- ✓ 世界各地に研究開発部門・テストセンターを所持
- ✓ 経営・生産すべて現地スタッフが対応 現地のニーズ・商習慣を熟知した対応

製造： **5**ヶ国



研究開発： **3**ヶ国



テストセンター： **6**ヶ国



テストセンター（大阪）



測定分析装置



自社工場（大阪）



自社工場における製造工程

# 取引分野



# 上半期 好調分野・用途



日本・アジアグループ



欧州グループ



アメリカグループ

## 粉体関連事業



二次電池関連が全世界で継続して好調



化学材料



医薬品製造用の細胞培養培地

医薬品

食品



## プラスチック薄膜関連事業

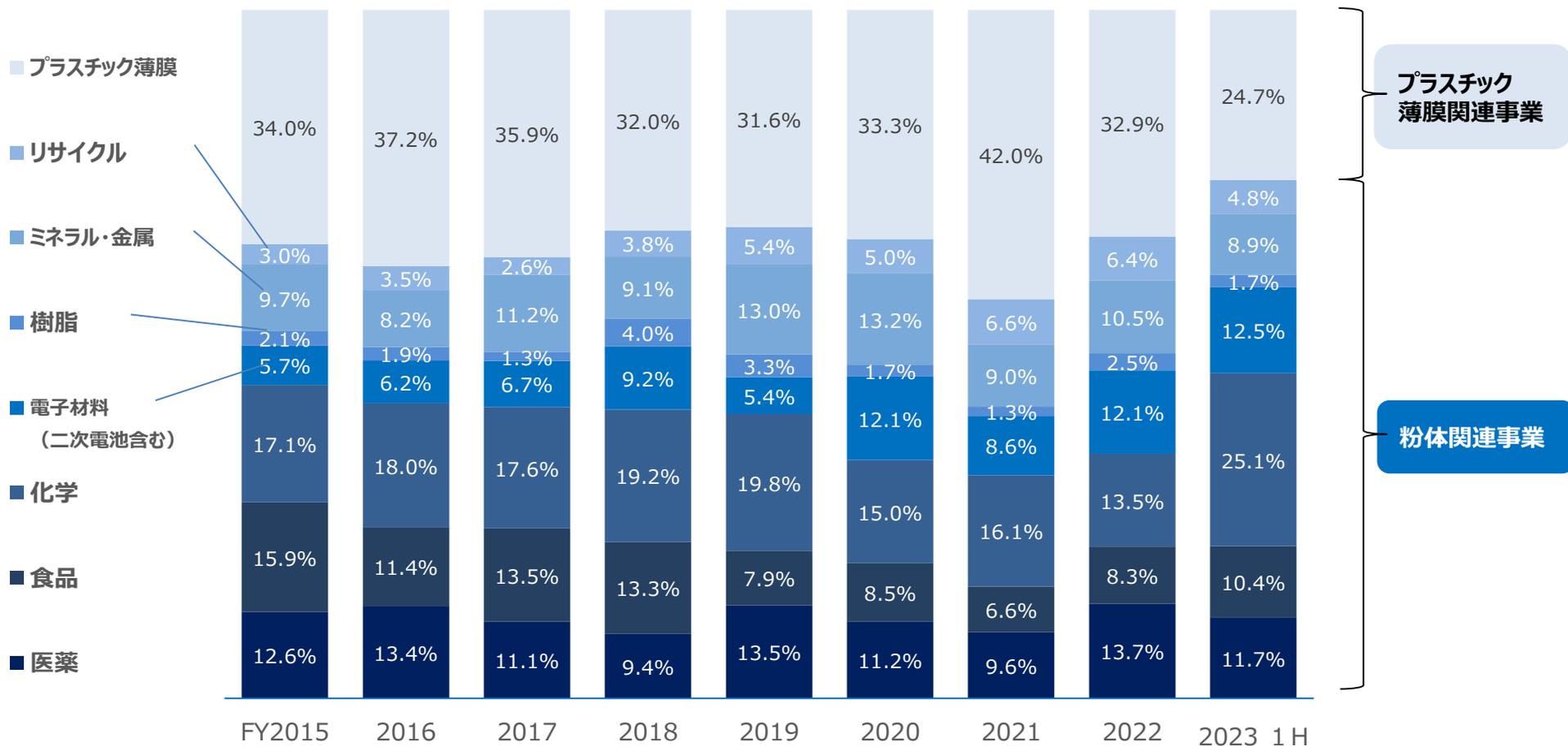


- ・家庭ごみなどのプラスチック廃棄物を原料にした薄膜フィルム
- ・包装用多層フィルム

# 沿革

- |       |   |  |  |
|-------|---|--|--|
| 1916年 | 細川永一が大阪タービン製造所を創業   |  |  |
| 1949年 | 株式会社細川鉄工所 設立  |  |  |
| 1957年 | 東京支店 開設   |  |  |
| 1958年 | 細川粉体工学研究所 設立  |  |  |
| 1960年 | イギリスにホソカワミクロン インターナショナル社 設立   |  |  |
| 1972年 | イギリスにホソカワ ヨーロッパ社 設立   |  |  |
| 1973年 | 大阪府枚方市に本社事務所・枚方工場 竣工  |  |  |
| 1980年 | ホソカワミクロン株式会社に商号変更   |  |  |
| 1982年 | オランダ ナウタミックス社を買収  |  |  |
| 1985年 | アメリカ USフィルターシステムズ社を買収   |  |  |
| 1986年 | アメリカ ホソカワミクロンインターナショナル社 設立  |  |  |
| 1987年 | ドイツ アルピネ社を買収  |  |  |
| 1991年 | (財)ホソカワ粉体工学振興財団 設立  |  |  |
| 1992年 | アメリカ ビーパックス・グループ企業を買収   |  |  |
|       | 東京、大阪証券取引所 1 部上場  |  |  |
|       | 奈良県五條市 奈良工場 竣工  |  |  |
|       | 茨城県つくば市 粉体技術開発センター 竣工   |  |  |
| 1995年 | 海外販売拠点 設立 マレーシア(1995), 韓国(1996), フランス(1999), 上海(2005), インド(2007), ロシア(2012), タイ(2019), ポーランド(2020), スイス・メキシコ・チリ(2022) |  |  |
| 2007年 | 新本社ビル 竣工 (枚方市)  |  |  |
| 2009年 | つくば受託加工センター 竣工  |  |  |
| 2010年 | ホソカワ ビーパックス社 (ドイツ) 新テストセンター 竣工  |  |  |
| 2011年 | 日清エンジニアリング(株)と業務提携  |  |  |
| 2013年 | 新東京事業所 竣工 (柏市)  |  |  |
| 2014年 | ホソカワミクロン化粧品 (株) 設立  |  |  |
| 2015年 | ドイツ アントンコルプ社を買収   |  |  |
|       | 製菓関連事業を売却   |  |  |
| 2016年 | 創業100周年   |  |  |
| 2020年 | ホソカワ受託加工 (株) 設立   |  |  |
|       | ドイツ ソリッドソリューショングループを買収  |  |  |
| 2021年 | 新 大阪工場 竣工   |  |  |
| 2022年 | 東証プライム市場へ移行   |  |  |
| 2023年 | 合併会社NEXOPART GmbH & Co.KG.設立  |  |  |

# 市場別受注割合

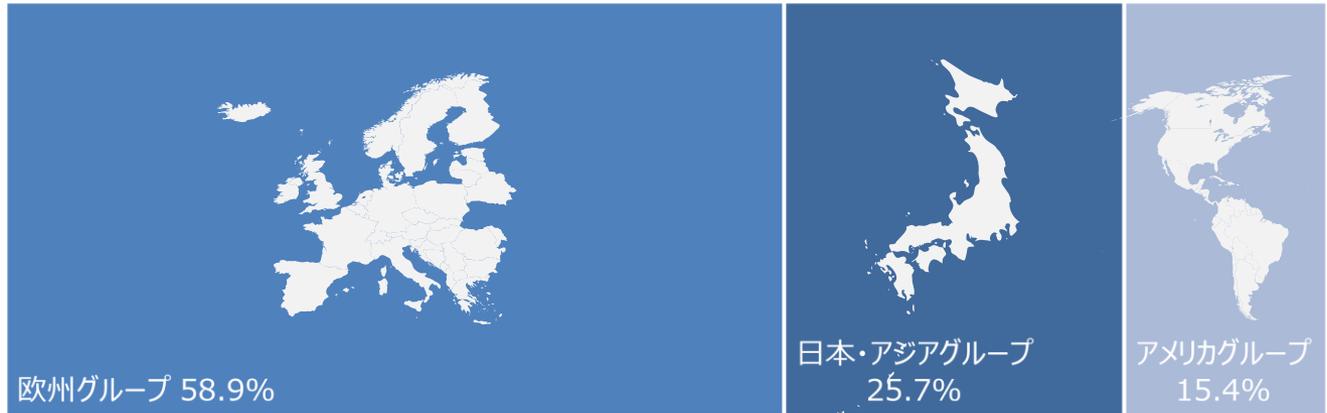


※メンテナンス、受託加工等を除く

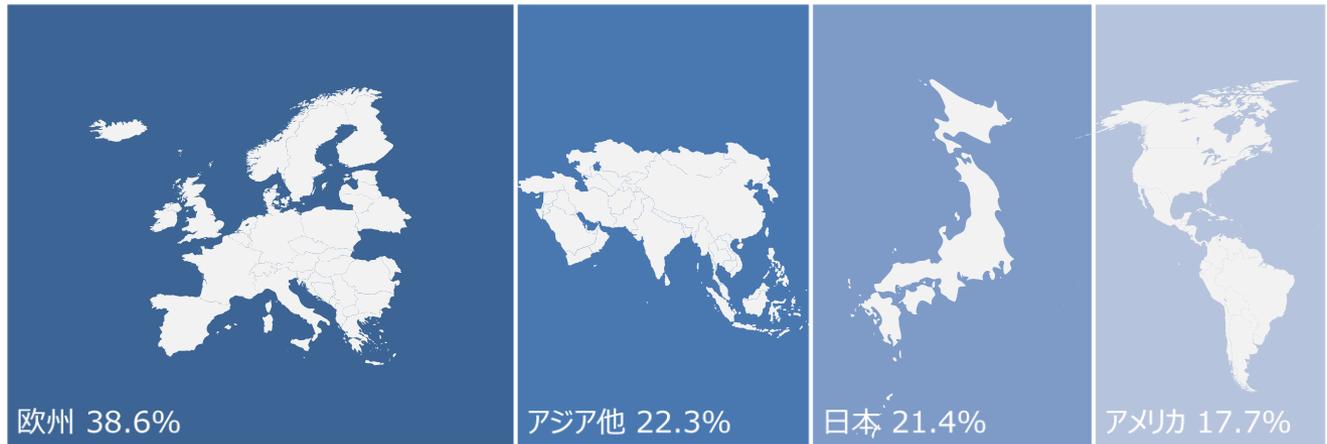
# 所在地別 売上高構成比

※四角の面積が売上高の大きさを表す

グループ  
所在地別



顧客  
所在地別



# グループ主要企業別 売上高構成比

※四角の面積が売上高の大きさを表す

粉体関連事業

プラスチック薄膜関連事業



Japan (Headquarters)



Germany (HOSOKAWA ALPINE)



Germany (HOSOKAWA ALPINE)



USA (HOSOKAWA MICRON INTERNATIONAL)



Netherlands (HOSOKAWA MICRON BV)



UK (HOSOKAWA MICRON LTD)

Germany (HOSOKAWA MICRON POWDERS)

Others



USA (HOSOKAWA ALPINE AMERICAN)



本資料の無断での複製・転載・転送等をご遠慮ください。